



QRコードを読み取り、令和4年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



わかばやし しづこ  
**若林 志津子**  
(日本共産党議員団)

### コロナ禍における生活困窮者の対応について

**問** 全国でコロナ禍の中、生活困窮となる方が急増し、厚生労働省の検討会でも深刻な状況が報告されている。相談件数と内容について当市の状況を伺う。

**部長** 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金について、令和3年度は60件申請があり、そのうち23件からは再支給申請があった。住宅確保給付金は、ここ2年間で支給要件が緩和されたこともあり、離職された方に加え、収入が下がったため相談に見える方が4割強に上っている。生活保護の相談は令和元年が125件、令和2年度が166件、令和3年度が150件。内容は、預貯金の減少、喪失が最も多く、次いで世帯主の傷病によるものとなっている。当市は福祉総合相談として、相談者の困り事や生活

状況などを丁寧に聞き取り、生活困窮自立支援制度はじめ各種社会保障制度の利用につなげている。

### ひきこもりの実態をつかみ早急な対策を

**問** 東京都江戸川区が実施した、ひきこもりの実態調査を当市でも行い、実態や要求を把握し、具体的な対策の検討をすべきと考える。

**部長** ひきこもりの実態調査は令和元年度に民生委員、児童委員及び主任児童委員のご協力のもと、県と県内市町の共同で実施した。民生委員253人のうち218人から個票の提出があり、市内には、ひきこもり状態の方が62人いると把握した。しかし8割強の民生委員等は、ひきこもりに関する相談を受けていないと分かった。背景には、当事者や家族の思いがあり、潜在的ニーズの把握はかなり難しいと考える。新たな実態調査を行うより、実施した調査を基に、地域住民、民生委員、児童委員、関係機関などどのような支援体制を整えるか協議を進め、実態や要望を把握していきたいと考えている。



わたなべ よしまさ  
**渡辺 佳正**  
(日本共産党議員団)

### 市民の知る権利を守るために、(仮称)郷土史博物館基本構想策定に関わる検討委員会等の議事録開示を

**問** 市の公共施設や全国の公立博物館の基本構想策定に関わる検討委員会等で、会議、議事録が非公開で実施されたものはあるのか。

**部長** 市が調査した範囲で、これらの会議、議事録が非公開で実施されたものはない。

**問** なぜ今回は議事録を非公開にしたのか。

**副市長** 同事業について議会で賛否が拮抗する中で基本構想検討を始めるということで、検討委員が率直に意見を交換できるかどうかを心配したからだ。しかし、改めて検討した結果、新たな開示請求があれば、開示することとした。

**問** 教育部長は教育委員会で基本構想を正式に決定したと答弁したが、教育委員会の議事録

を見る限り、正式な決定ではないのではないか。

**部長** 教育委員会では決定していないが、教育長と市長の決裁を経て正式な決定となっている。

**問** 公開すべきものを非公開にしたり、教育部長が間違った答弁をするのは、郷土史博物館に対する市長の思いが強すぎるからではないか。コロナ禍もあり、基本構想の策定が始まってから実質1年余りしか経っていない中で、行政が正式な手続きを踏んでいないのではないか。

**市長** 私は早く造りたいとは一言も言ってない。職員が気を配ってやったことが情報非開示ということになったので、私からお詫びする。今後は、一步一步手順を踏んで丁寧にしっかりやっていく。

**意見** 地域説明会で出された市民の意見、関係者に対する意見聴取で出された意見など、すべての内容について議会への資料提出を求める。

大切なことは  
みんなで考えよう！

